



発行責任者
特定非営利活動法人
相模原市障害児者福祉団体連絡協議会
(通称：NPO法人れんきょう)
会長 鈴木秀美
相模原市中央区富士見6-1-20 (あじさい会館内)
TEL & FAX 042-755-5282 (直通)
題字「わ」 相模原市長 本村賢太郎

さーくる 障害理解

検索

《障害者週間のつどいのご案内》

本年度の「障害者週間のつどい」は12月8日(日)にあじさい会館ホールにて開催の予定です。

第一部は「心の輪を広げる体験作文」と「障害者週間のポスター」の優秀作品の表彰式です。入賞者には市長から表彰状が授与されます。また、作品はあじさい会館のロビーに展示される予定ですので、是非ご鑑賞ください。

第二部は昨年につき映画の上映となります。映画のタイトルは「星に語りて」です。東日本大震災で被災した障がい者と支援者の活動を描く人間ドラマです。多くの方々の参加をお待ちしています。

《令和6年度福祉施策懇談会に向けて》

本年度の「福祉施策懇談会」は令和7年3月16日(日)10時から、あじさい会館6階の展示室で開催の予定です。

本年10月頃に、市内の障がい者団体にアンケート(市行政に対する要望事項等)を依頼して、そのアンケート回答をもとに市行政に対する要望事項を取りまとめ、市に提出します。市ではその要望事項に関する市の考えや回答をれんきょうに伝えます。

福祉施策懇談会では、その市からの回答を見て、質問や更なる要望があればそれを述べる等、市と障がい者団体の懇談が展開されます。このように福祉施策懇談会は市行政と障がい者団体が意見を交換できる貴重な機会です。多くの障がい者団体から多くの意見をいただき、有意義な会議になるようにしたいと思います。

《ほかほかふれあいフェスタ2024のお知らせ》

ほかほかふれあいフェスタ2024は10月12日(土)に健康フェスタと共同で開催されます。会場は健康フェスタがウェルネス相模原、ほかほかふれあいフェスタがあじさい会館とウェルネス相模原前広場となります。

す。あじさい会館ホールで開かれる式典が10時にスタートします。その後、ホールではチアダンス、ヒップホップダンス、手話ダンス、よさこいソーラン節、コーラスが実施されます。あじさい会館6階ではパラスポーツ体験会、e-スポーツ体験会、点訳体験、マッサージ無料施術等が行われます。

ウェルネス相模原前広場では、車いすダンス、バンド演奏、よさこいソーラン節、阿波踊り等が披露されます。また、多くのバザーや模擬店(焼きそば、まぜ麺、玉こんにゃく、ポップコーン、野菜、パン)が出ます。れんきょうは加盟団体のパネル展示と相談コーナーを設けます。

また、11月30日(土)午後には障害者週間キャンペーンとして相模大野駅北口広場で、冬のほかほかふれあいフェスタが開催されます。バンド演奏、よさこいソーラン節、ヒップホップダンスが実施され、障がい福祉関連のチラシを通行人の皆様に配布する予定です。

《新成人を祝う会のお知らせ》

本年度の「新成人を祝う会」は令和7年1月12日(日)にけやき会館・大樹の間で開催予定です。

主催者は従来の「新成人を応援する会」(藤井恵美子会長)から「新成人を祝う会」(甘利智明会長)に代りますが、従来どおり多くの方々のサポートを得て新成人の方々の門出を祝いたいと思います。

《市議団との政策懇談会の報告》

本年度も、7月から9月にかけて自民党、公明党、立憲民主党そして新たに日本共産党との政策懇談会に参加しました。当方からは重度障害者等福祉手当と重度障害者医療費助成制度の継続要望、障害者差別解消法推進条例の制定、安全な歩道の確保、タクシー券に関する透析患者への支給金額増額や支給対象の障がい程度だけではない実態に即した適用、精神障がい者への差別的な扱いの中止等11項目について説明し、議員の方々と意見を交換しました。

《令和6年度共生社会推進サポーター認定事業の開催》

民間事業者による合理的配慮の提供が義務化されたことから、民間事業者向けに、障害者差別解消法改正法に係わる内容の研修会を開催し、受講した民間事業者を「共生社会推進サポーター」として認定して、市内企業への理解促進を図ります。

第1回 令和6年12月23日(月) あじさい会館6階研修室にて13:30~16:00

第2回 令和7年2月1日(土) あじさい会館6階研修室にて13:30~16:00

詳細は確定次第広報いたします。

《令和6年の障害者作品開催について》

相模原市身体障害者連合会 会長 小出 庄作

今年は相模原市市制施行70周年記念・令和6年度相模原市障害者作品展を障害者週間の12月6日（金）～8日（日）の3日間、あじさい会館6階展示室で、開催されます。

令和5年の作品展は相身連3団体を始め、市内の障害関係の21事業所から作品を出品していただき、絵画・手芸・書・写真・陶芸・木工・紙工芸・短歌・彫刻など大小400点を越える心のこもった作品を展示する事ができました。

3日間の作品展のために、今年は何を作ろうか案を練っていただき、そして何か月も前から作品の創作活動に入ると聞きます。各事業所のスタッフの皆さん並々ならぬ努力のおかげで、毎年、数多くの立派な作品が展示会場に飾られて、障害関係者・一般の見学者・市長・市議会議員・市職員・県会議員・市会議員の方々など多くの皆様に『障害者作品展』をご鑑賞いただける幸せを作品を出品して下さった関係団体の皆様に感謝します。

毎年、相身連3団体が中心になって作品を出品していますが、出品して下さる会員の皆さんが70歳を超えた高齢者で細かい手仕事が、無理になってきたと会員の皆さんから多くの声を聞くようになり、心配事ではありますが、これからも相身連が先頭になって障害者作品展を市内の障害者関係団体と協力して続けていこうと思います。



《本当に相手の身になって考えるとは》

～相模原市重度障害者等福祉手当廃止に思う～

相模原市精神障がい者仲間の会（あしたば会）はんざわ まさたか 榛澤 昌高

相手の身になって考える

人は自分の懐が痛まなければ、相手が困窮している人だろうが、その人から“かけがえのない収入”を奪っても、それに対し鈍感で無関心らしい。“相手の身になって考える”という教えは、子供の頃からさんざん叩き込まれる美德ですが簡単なことではありません。

相模原市は「重度障害者等福祉手当」を2年後廃止する案を市議会に提出し、3月19日、賛

成多数で可決され、障害者は“かけがえのない収入”を奪われることになりました。市は「福祉の基盤整備のため」などと弁解していましたが、障害者にとっては“死活問題”なので説得力を持ちません。

「相模原市重度障害者等福祉手当」とは

昭和 47 年（1972 年）、市の単独事業で身体・知的障害者を対象に開始されました。（精神障害者は平成 19 年（2007 年）以降。月 5 千円で年 6 万円支給）。日本の障害者の相対的貧困状態の方は 78.6%（「きょうされん調べ」）と低所得の方が多く、この手当はまさに“かけがえのない収入”です。“お金がない”が人をどれだけ精神的に追い込むか？精神障害者の中には『希死念慮』のある方もおられ、廃止のショックが引き金にならないか危惧されます。

廃止に反対する理由

- 昨今の急激な物価高の中、実質的に障害者の生活を支えている手当を廃止したら困窮するのは明らかです。なぜこのタイミング？
- 廃止が決定した 3 月 19 日時点で、一部の障害者団体関係者だけが廃止を知っていて、9 割以上の障害者は知りませんでした。ほとんどの障害者に知らせないまま決めたのは、「私たち抜きに私たちのことを決めるな！」という「障害者権利条約」の大原則に反します。
- 市は「直接給付よりも福祉の基盤整備が必要」と手当廃止を正当化していますが、生活費の一部を奪われたら今の生活が壊されます。

意見交換会と署名活動

昨年か今年にかけて「あしたば会」では、市の職員、市議会各会派と複数回、意見交換会を行いました。市長にも直訴しました。署名活動で 1348 筆集めて市に提出しました。「手当が無くなったら困る」「手当を守ってほしい」との障害者の切実な声を本当に多く聴きました。しかし、訴えは届きませんでした。

相模原市は手当を廃止する一方、市職員給与は人事委員会勧告で、年平均 10 万円増額されました。物価高や民間企業の賃金アップの中、公務員の給料アップは理解出来なくもありませんが、障害者からは“かけがえのない収入”を奪って自分たちは収入増？腑に落ちません。市長は「誰も取り残さない」とよく言われますが、その中に障害者は入れていただけないのですか？

当事者目線の施策

神奈川県が「相模原事件」や施設内での虐待発覚で施策を見直し「当事者目線の障害福祉推進条例」で“障害者の身になって考える”施策を進める一方、相模原市は当事者目線を無視して手当を廃止しました。

ただ“当事者目線”と言っても、公務員が障害当事者の目線になれるわけではありません。逆に私だって“公務員目線”にはなれません。公務員の仕事は大変そうですが、その仕事の本当の過酷さは分かりません。もし私が運よく精神障害者に成らず市の職員に成っていたら、障害者の身になって考えられたか？自信はありません。

役所は、なぜ障害者など社会的弱者に冷たいのか？

一般市民の中には「障害者だけ手当もらってズルい」と考える人もいます。“下方嫉妬”（自分より下の立場の方の優遇に不満を持つ）の人がいます。例えばワーキングプアなどの方が生活保護の方を批判の標的にすること。障害者年金や交通機関割引に不満を持つ方もおります。実は役所の中にも。以前、小田原市の生活保護担当の職員が「HOGO NAMENNA」と入ったジャンパーを作る（小田原ジャンパー事件）がありました。

“役所は、なぜ障害者など社会的弱者に冷たいのか？”理由の中に“市民の下方嫉妬への配慮”と“公務員にとっては他人事”もあると思います。手当を廃止しても職員の懐は痛みません。職員も公共の場では“障害者の身になって考える”フリはします。ただそれは“人前ではキレイごとを述べる”という形が現れるだけで、彼らは思いやりや優しさで仕事をするわけではありません。市の職員との意見交換会で感じたのは、障害者がいかに困るかを語っても彼らの反応は極めて冷静で、話は全く噛み合わず、淡々と廃止の理由を述べていました。

本当に相手の身になって考えるとは

ただ「障害者は手当さえあれば幸せである」とは考えていません。例えば精神障害者、地域精神医療福祉の貧弱さ、偏見や差別などが解消されなければ幸せにはなれません。

ただ一番願うことは、“本当に相手の身になって考える”人が増えることです。そうすれば精神障害者は減り、手当など社会保障に頼らなくても済む人が増えます。“相手の身になって考える”フリではなく、人の痛みを“他人事”にならなければ、誰もが住みやすい社会になるのにとおもいます。心が壊れる人も減るのに。自ら死を選ぶ人も減るのに。

《さがみハート展開催案内》

あしたば会副会長/さがみハート展実行委員

五十嵐 吉朗

皆様、さがみハート展の季節がやってまいりました。

さがみハート展は、統合失調症やうつ病などの精神に障がいがかかえている人が紡ぎだした詩に市内の中学生や60歳以上の市民が学ぶ相模原市あじさい大学の卒業生らが絵を描き、詩と絵を一緒に展示する展覧会です。

本展では、来場者は毎年800人近く来ています。令和5年度には市長も来賓しました。本展期間中の催しでは、相模台クリニックの皆さんによるトーンチャイム演奏があります。トーンチャイムは楽しみにしている方が多くいます。また、詩と絵の作者がお互いの思いを伝え合う、詩と絵の作者の交流会も開催しています。

本展以外に、巡回展を市内の公民館や中学校で開催しています。小山中学校巡回展では、多くの学生や保護者に、当事者の方が書いた詩を見てもらっています。

さがみハート展を通じて様々な交流が育まれています。令和5年度では、相模ボランティア主催のプチインターン in ボランティアにて、さがみハート展のPR動画を大学生が作るという取り組みにさがみハート展実行委員会が協力しました。大学生が詩の作者の方にインタビューなどして、当事者の方と交流する機会がありました。

さがみハート展は、さがみハート展実行委員会が主催です。実行委員は、当事者会のあしたば会、ボルトナット会をはじめ、こころに病がある当事者が参加している。その他にも、市民画家が集まった絵の会、B型作業所、みどり会、ひびき、カミング、みなみ風が参加しています。当事者の実行委員会の方は、ハート展の協力団体先に協力依頼、当日必要な詩のパネルを作成、当日の受付業務など幅広く携わっています。

ただいま、第16回さがみハート展の開催に向けて準備を進めております。楽しみにお待ちしております。できればと思います。

第16回「さがみハート展」～詩と絵画のコラボレーション展～

1. 会期

令和7年1月10日(金)から1月14日(火) 10:00～17:00
(初日 13:00から 最終日 15:00まで)

2. 会場

相模原市民ギャラリー 第1展示室

3. 作品数

56点

4. 期間中の催し

令和7年1月11日(土)(仮)

■代表者挨拶 ■来賓挨拶

■相模台クリニックの皆さんによるトーンチャイム演奏 他

《相模原やまびこ会作品展開催のご案内》

第17回 相模原市 自閉症児・者作品展

開催日：2024年11月29日（金）13：00～19：00

30日（土）10：00～19：00

12月1日（日）10：00～15：00

会場：おださがプラザ ラクアルオダサガ 4階

『あなたに知ってほしい、私たちの事』

やまびこ会作品展

ホームページ



《「さーくる」の最近のアクセス状況報告》

最近のアクセス状況を下表のとおりご報告します。

	R5年				R6年	
	9月	10月	11月	12月	1月	2月
訪問回数（回）	2333	3266	3044	2363	2742	2936
訪問人数（人）	1959	2664	2583	1930	2326	2469
見られたコンテンツ（件）	4562	6705	6856	5113	6701	6565
初めて訪問する人の率（％）	81	78.9	81.9	77.6	82	81.3

	R6年					
	3月	4月	5月	6月	7月	8月
訪問回数（回）	2577	3181	3093	3250	3266	2693
訪問人数（人）	2161	2782	2687	2753	2842	2307
見られたコンテンツ（件）	4757	6270	6048	6746	6278	5180
初めて訪問する人の率（％）	80.6	84.9	84.3	82	84.6	82.2

「さーくる」の1年間の推移です。

さーくる 障害理解 **検索** 

《事務局たより》

《令和6年度冬季受託事業販売協力依頼》

毎年恒例の受託販売にご協力をいただきありがとうございます。今年度も11月5日から長崎ちゃんぽん麺・皿うどん詰合せ、うどん、全粒粉そうめんの販売を開始いたします。

年2回の売り上げの一部を会運営資金にあてておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

何卒、当協議会の主旨、目的を再度、ご理解いただきまして、格段のご協力の程よろしく願いいたします。

- ① ちゃんぽん・皿うどん詰め合わせ (N-1) (箱入り) れんきょう販売価格 ¥2,400
(長崎ちゃん麺 100g×4袋 スープ 4袋 長崎皿うどん麺 60g×4袋 スープ 4袋)
- ② 島原のれん (VS-45) (箱入りうどん) れんきょう販売価格 ¥3,150
(1260g詰 90g×14束) / 手延べうどん (丸) 90g×7束・手延べうどん (平) 90g×7束
- ③ 島原小町 (ES-33) (箱入り全粒粉そうめん) れんきょう販売価格 ¥2,800
(50g×18束)

※販売期間：令和6年11月5日～令和7年1月31日

ちゃんぽん皿うどんセットの受注は12月10日で打切りさせていただきます。

※販売場所：商品お渡し場所 あじさい会館内4階 NPO法人れんきょう事務所

※販売時間：午前10:00～午後4:00 (月曜日～金曜日)

※お問合せ：NPO法人れんきょう事務所まで。電話 042-755-5282

《新車紹介セールご協力のお願い》

～ (株) クライム社様より新車購入紹介セールのお知らせ～

対象車種：乗用車、ライトバン、RV、トラック

対象メーカー：日産、ホンダ、マツダ、三菱、ダイハツ

新車購入の成約前に必ずNPO法人れんきょう事務所まで連絡をお願いいたします。

❖ご協力いただいた方には、協力手数料をお支払いいたします。

詳細はNPO法人れんきょう事務所まで (042-755-5282)